厚生労働科学研究委託費（長寿科学総合研究事業）
委託業務成果報告（業務項目）

行政や関係組織による検討会議に住民の代表として これから参加を希望する者の特徴に関する研究 －男女差に注目して－

担当責任者　小島基永　東京医療学院大学

研究要旨

地域在住高齢者の地域活動への主体的な参加を促進するにあたって、行政や関係組織による検討会議に住民の代表として活動する者のリクルートは必須である。本研究で、こうした検討会議に参加を希望する者の特徴について性差を含め検討したところ、男女ともに地域での活動実績のある者が有力な候補であり、かつ、男性では町内会や自治会を通したアプローチ、女性では収入のある仕事をしているような精神的にも溌剌としている者へのアプローチをリクルートの方策に加えることが有効であろうと推察された。

A．研究目的

地域在住高齢者の地域活動への主体的参加促進に関する地域介入を計画する事業においては、行政や関係組織による検討会議に住民の代表として活動する者のリクルートが必要である。

高齢期の健康増進である介護予防事業では、男性参加者の割合が少ないことが指摘されている[1)]。一方、社会・奉仕活動においては、男性の方が活動的である[2)]との報告もみられる。

また、高齢者がこうした地域活動に参加する関連要因として、低年齢、高学歴、高収入、健康状態が良い[3)]ことが報告されている。

行政や関係組織による検討会議に、住民の代表として参加を希望する者の特徴はどうであろうか？

本研究では、行政や関係組織による検討会議に住民の代表として活動を希望する者の特徴を、特に男女差に注目して明らかにすることで、住民の代表をリクルートする際の検討材料を提供する。

B．研究方法

本研究では、地域介入によって、地域在住高齢者の心身機能や社会生活機能がどのように変化するのかを継続的に評価するために、「豊島区シニア心と体の健康調査」を実施した。

1. 対象者

豊島区菊かおる園地域包括支援センター所管地域（西巣鴨 1～4 丁目、巣鴨 3～5 丁目、北大塚 1～2 丁目）を対象地域とし、この地域に居住し、2014 年 11 月 1 日現在 65～84 歳の高齢者全員で施設入所者を除く 6,158 名を対象者として抽出した。

2. 先行地域・後行地域の設定

本研究では地域介入研究を行うため、対象地域を先に介入を行う先行地域と最初は観察地域とし、後に介入を行う後行地域とに分けた。対象地域の西側の地域（西巣鴨1～4丁目、北大塚2丁目）を先行地域、東側の地域（巣鴨3～5丁目、北大塚1丁目）を後行地域とした。

3. 郵送調査

対象者に対して、健康度自己評価、現有病、生活機能、要介護度、社会活動状況、社会関係資本などについて郵送調査票を発送し、回答を依頼した結果、2,526 名から回答を得た（回収率 41.0%）。調査票回収期間は 2014 年 10 月 6 日～2014 年 12 月 24 日であった。

4. 会場調査

郵送調査発送時に会場調査参加者を募集した。760 名が応募し（応募率 12.3%）、このうち 549 名が実際に会場調査へ参加した（参加率 72.2%）。会場調査では、身体組成、生活問診、運動機能、口腔機能、認知機能などの詳細な調査を行った。

5. データ解析

1) 質問「区や関係組織による検討会議に住民の代表として参加し、活動内容の企画・検討を行う」での、回答「現在している」「していない」における、男女の出現頻度の偏りを検討した。

2) 続いて、「していない」と回答した者のうち、「してみたい」と「したくない／できない」について、男女の出現頻度の偏りを検討した。

3) この「してみたい」と「したくない／できない」を従属変数とし、独立変数は先行研究の知見に基づき、「年齢」「主観的健康観」「団体への所属：町内会や自治会、老人会・老人（高齢者）クラブ、趣味のサークルや団体、スポーツのサークルや団体、ボランティア団体や市民活動団体・NPO、同業者団体、政治や宗教関係の団体など」「介護予防を知っているか」「認知機能検査（MMSE）得点」「最大歩行時間」「精神的健康状態（WHO-5）得点」「人生満足度尺度（LSI-K）得点」「高齢者用うつ尺度（GDS）得点」「社会的ネットワーク尺度（Lubben Social Network Scale 短縮版_LSNS-6）得点」「地域活動の頻度：地域の子育て支援、地域環境保全活動、地域の交通安全・防犯・防災等の活動、住民の健康維持・増進のための活動、高齢者や障害者に対するボランティア、知識・技術を教える講師」「現在、収入を伴う仕事をしているか」「暮らし向き」「昨年 1 年間の世帯収入」「生計を共にする世帯人数」「最終学歴」として、2 群の差を男女別に検討した。

4) 3)で統計学的に有意差が認められた独立変数から代表的なものを選択し、ロジスティク回帰分析にて、「区や関係組織による検討会議に住民の代表として参加し、活動内容の企画・検討を行う」ことをこれから「してみたい」と回答した者の特徴について、男女差を含めて検討した。

5) なお、統計学的な有意水準は全て 5%とした。

（倫理面への配慮）

本研究計画については、所属機関の倫理委員会において審査され、承認を受けた（承認番号：平成 26 年度「32」）。

C．研究結果

1. 「区や関係組織による検討会議に住民の代表として参加し、活動内容の企画・検討を行う」での、回答「現在している」「していない」における、男女の出現割合の検討

「現在している」と回答した者は、男性 2 名、女性 9 名であった（表 1）。カイ二乗独立性の検定の結果、統計学的に有意な男女の出現頻度の偏りは認められなった。

表 1　住民代表としての現在の参加の有無における男女別の出現割合

		住民代表として現在参加		
		はい	いいえ	合計
男性	度数	2	185	187
	調整済み残差	-1.1	1.1	
女性	度数	9	353	362
	調整済み残差	1.1	-1.1	
合計	度数	11	538	549

2. 「区や関係組織による検討会議に住民の代表として参加し、活動内容の企画・検討を行う」で「現在していない」と回答した者の中で、「してみたい」と「したくない／できない」と回答した者について、男女の出現頻度の偏りの検討

「参加してみたい」と回答した者は、男性 34 名、女性 48 名であった（表 2）。カイ二乗独立性の検定の結果、統計学的に有意な男女の出現頻度の偏りは認められなかった。

表 2　住民代表としての参加希望の有無における男女別の出現割合

		住民代表として参加希望		
		はい	いいえ	合計
男性	度数	34	151	185
	調整済み残差	1.5	-1.5	
女性	度数	48	305	353
	調整済み残差	-1.5	1.5	
合計	度数	82	456	538

3. 「区や関係組織による検討会議に住民の代表として参加し、活動内容の企画・検討を行う」で「現在していない」と回答した者の中で、「してみたい」と「したくない／できない」と回答した者の間の 2 群の比較を男女別に検討（量的変数は t 検定、質的変数は Mann-Whitney の U 検定）

1) 男性における検討

男性の回答者において、統計学的に有意な 2 群間の差が認められたのは、イ.「団体への所属：町内会や自治会」、ロ.「団体への所属：ボランティア団体や市民活動団体・NPO」、ハ.「最大歩行時間」、ニ.「地域活動の頻度：地域の子育て支援」、ホ.「地域活動の頻度：地域環境保全活動」、ヘ.「地域活動の頻度：地域の交通安全、防犯、防災」、ト.「地域活動の頻度：住民の健康維持・増進のための活動」、チ.「地域活動の頻度：高齢者や障害者に対するボランティア」、リ.「地域活動の頻度：知識・技術を教える講師」、ヌ.「現在、収入を伴う仕事をしているか」の 10 変数だった（表 3、4）。

表 3　男性における住民代表としての参加希望の有無別による各変数の比較（その 1）

	住民の代表として参加希望					
	はい			いいえ		
	標本数	平均値	標準偏差	標本数	平均値	標準偏差
ハ	34	2.37	0.41	146	2.61	0.84

備考：中央値　はい：2.40、いいえ：2.40
速く歩く者に参加希望が多い

表 4　男性における住民代表としての参加希望の有無別による各変数の比較（その 2）

	住民の代表として参加希望					
	はい			いいえ		
	標本数	平均値	四分位範囲	標本数	平均値	四分位範囲
イ	34	3.00	3	151	1.00	1
	備考：平均値　はい：2.56、いいえ：1.64 所属している者に参加希望が多い					
ロ	34	1.00	2	151	1.00	0
	備考：平均値　はい：1.82、いいえ：1.23 所属している者に参加希望が多い					
ニ	32	3.00	1	132	3.00	1
	備考：平均値　はい：2.44、いいえ：2.71 活動している者に参加希望者が多い					
ホ	31	2.00	1	137	2.00	1
	備考：平均値　はい：1.84、いいえ：2.39 活動している者に参加希望者が多い					
ヘ	31	2.00	2	134	3.00	1
	備考：平均値　はい：1.90、いいえ：2.36 活動している者に参加希望者が多い					
ト	31	2.00	1	132	3.00	1
	備考：平均値　はい：2.13、いいえ：2.60 活動している者に参加希望者が多い					
チ	31	2.00	2	132	3.00	1
	備考：平均値　はい：2.00、いいえ：2.60 活動している者に参加希望者が多い					
リ	32	2.00	1	134	3.00	1
	備考：平均値　はい：1.94、いいえ：2.45 活動している者に参加希望者が多い					
ヌ	32	3.00	2	148	4.00	2
	備考：平均値　はい：2.84、いいえ：3.24 仕事をしている者に参加希望者が多い					

2) 女性における検討

女性の回答者において、統計学的に有意な 2 群間の差が認められたのは、ル.「年齢」、ヲ.「主観的健康観」、ハ.「最大歩行時間」、ワ.「高齢者用うつ尺度（GDS）得点」、ニ.「地域活動の頻度：地域の子育て支援」、ト.「地域活動の頻度：住民の健康維持・増進のための活動」、チ.「地域活動の頻度：高齢者や障害者に対するボランティア」、リ.「地域活動の頻度：知識・技術を教える講師」、ヌ.「現在、収入を伴う仕事をしているか」の 9 変数であった（表 5、6）。

表 5　女性における住民代表としての参加希望の有無別による各変数の比較（その 1）

	住民の代表として参加希望					
	はい			いいえ		
	標本数	平均値	標準偏差	標本数	平均値	標準偏差
ル	48	72.4	5.08	305	74.2	5.16
	備考：中央値　はい：73.0、いいえ：74.0 若い者に参加希望者が多い					
ハ	47	2.56	0.42	300	2.82	0.81
	備考：中央値　はい：2.40、いいえ：2.70 歩くのが速い者に参加希望者が多い					
ワ	48	2.38	2.69	305	3.31	2.88
	備考：中央値　はい：2.00、いいえ：3.00 抑鬱傾向でない者に参加希望者が多い					

表 6　女性における住民代表としての参加希望の有無別による各変数の比較（その 2）

	住民の代表として参加希望					
	はい			いいえ		
	標本数	平均値	四分位範囲	標本数	平均値	四分位範囲
ヲ	48	2.00	1	305	2.00	1
	備考：平均値　はい：1.92、いいえ：2.13 良い者に参加希望者が多い					
ニ	42	2.00	1	247	3.00	1
	備考：平均値　はい：2.33、いいえ：2.57 活動している者に参加希望者が多い					
ト	39	2.00	1	236	3.00	1
	備考：平均値　はい：2.31、いいえ：2.54 活動している者に参加希望者が多い					
チ	38	2.00	1	246	3.00	1
	備考：平均値　はい：2.21、いいえ：2.44 活動している者に参加希望者が多い					
リ	40	2.00	2	245	3.00	1
	備考：平均値　はい：2.20、いいえ：2.49 活動している者に参加希望者が多い					
ヌ	45	3.00	2	284	4.00	1
	備考：平均値　はい：2.84、いいえ：3.39 仕事をしている者に参加希望者が多い					

4. 結果3で統計学的に有意差が認められた変数から代表的なものを選択し独立変数としたロジスティク回帰分析

結果 3 で示した変数から項目の代表性を鑑みて、「年齢」「主観的健康観」「団体への所属：町内会や自治会」「最大歩行時間」「高齢者用うつ尺度（GDS）得点」「地域活動の頻度：地域の子育て支援」「地域活動の頻度：高齢者や障害者に対するボランティア」「地域活動の頻度：知識・技術を教える講師」「現在、収入を伴う仕事をしているか」を選択し、「区や関係組織による検討会議に住民の代表として参加し、活動内容の企画・検討を行う」について、「現在している」と回答した者を除いた、「してみたい=0」「したくない／できない=1」を従属変数としたロジスティック回帰分析を行った。

尚、「団体への所属：町内会や自治会」については、回答の選択が「1. 入っていない、2. 入っているがこの 1 年間は活動せず、3. 年に 1～11 回活動、4. 月に 1 回以上活動」と、数値が大きいほど活動性が高い変数であったが、これを他の変数の様相に合わせて、「4. 入っていない、3. 入っているがこの 1 年間は活動せず、2. 年に 1～11 回活動、1. 月に 1 回以上活動」と変換し、数値が小さいほど活動性が高い変数として解析した。

1) 性別を独立変数とした分析

統計学的に有意なモデルが作成され、これを構成する変数は、A.「団体への所属：町内会や自治会」、B.「地域活動の頻度：高齢者や障害者に対するボランティア」、C.「地域活動の頻度：知識・技術を教える講師」、D.「現在、収入を伴う仕事をしているか」であった（表 7）。

Hosmer-Lemeshow の検定は P=0.90 で回帰式の適合に問題なく、判別的中率は 86.1%であった。

表 7　住民代表としての参加希望の有無を従属変数としたロジスティック回帰分析の結果

	回帰係数	有意確率	オッズ比	95%CI 下限	95%CI 上限
A	.336	.012	1.40	1.08	1.82
B	.529	.020	1.70	1.09	2.65
C	.450	.036	1.57	1.03	2.39
D	.345	.006	1.41	1.11	1.80

2) 男性における検討

統計学的に有意なモデルが作成され、これを構成する変数は、A.「団体への所属：町内会や自治会」、B.「地域活動の頻度：高齢者や障害者に対するボランティア」、C.「地域活動の頻度：知識・技術を教える講師」であった（表 8）。

Hosmer-Lemeshow の検定は P=0.97 で回帰式の適合に問題なく、判別的中率は 85.8%であった。

表 8　住民代表としての参加希望の有無を従属変数としたロジスティック回帰分析の結果（男性）

	回帰係数	有意確率	オッズ比	95%CI 下限	95%CI 上限
A	.486	.017	1.63	1.09	2.43
B	.763	.036	2.15	1.05	4.37
C	.788	.024	2.20	1.11	4.35

3) 女性における検討

統計学的に有意なモデルが作成され、これを構成する変数は、E.「高齢者用うつ尺度（GDS）得点」、D.「現在、収入を伴う仕事をしているか」であった（表 9）。

Hosmer-Lemeshow の検定は P=0.63 で回帰式の適合に問題なく、判別的中率は 86.3%であった。

表 9　住民代表としての参加希望の有無を従属変数としたロジスティック回帰分析の結果（女性）

	回帰係数	有意確率	オッズ比	95%CI 下限	95%CI 上限
E	.177	.043	1.19	1.01	1.42
D	.422	.008	1.53	1.12	2.08

4) 多重共線性の検討

多重共線性の有無を確認するために、全ての独立変数と従属変数の相関係数（Spearman の ρ）を算出した。

その結果、最も大きい相関を示したのは「地域活動の頻度：地域の子育て支援」と「地域活動の頻度：高齢者や障害者に対するボランティア」の間で $\rho = 0.54$（$p<.01$）であった。その他はいずれも、統計学的に有意であったとしても $\rho = 0.50$ 未満であった。従って、多重共線性の存在は確認されなかった。

こうした傾向は、男女別にこの相関係数による検討をしても同様であり、例えば女性において、「年齢」と「高齢者用うつ尺度（GDS）得点」では $\rho = 0.13$（$p<.05$）、「年齢」と「現在、収入を伴う仕事をしているか」では $\rho = 0.28$（$p<.01$）であった。

D. 考察

行政や関係組織による検討会議に住民の代表として、これから活動を希望する者の特徴を、特に男女差に注目して検討した。

先ず、「既に区や関係組織による検討会議に住民の代表として参加し、活動内容の企画・検討を行っている」と回答した者の男女の出現頻度において統計学的に有意な差が認められなかったことから、男性だから、あるいは女性だから、特にこうした活動に参加していないという事実は確認されないものと考えられた。そもそも現在参加している者の数が、男性 187 名中 2 名、女性 362 名中 9 名と、男女ともに少数であったが、これを「これから参加を希望するか（希望する者は、男性 185 名中 34 名、女性 353 名中 48 名）」という回答について検討しても、男女の出現頻度に偏りは認められなかった。

加えて、性別を独立変数に含めたロジスティック回帰分析の結果においても、性別が回答「これから参加する」に対して寄与する因子とならなかったことから、こうした活動への参加ついては性差は認められないものと考えられた。

次に、これから参加を希望する者の特徴について、男女別に検討した結果をみる。

「参加を希望する」「しない」での単純な 2 群間の比較では、男女ともに、これまでの地域活動の経験（児童を対象とする活動でも、高齢者を対象とする活動でも）によって差が認められているが、特に男性においては、町内会や自治会への所属が特徴的であると考えられた。これは先行研究 [4]において、「男性の地域活動の場として町内会・自治会に関連するものが多い」と報告されていることに通じているものと考えられた。

また女性においては、年齢が若く、主観的健康観が高く、高齢者用うつ尺度が良いということが特徴的であると考えられた。

男性は町内会・自治会へ所属していること、女性では身体的な状態が、「参加を希望する」「しない」に、より大きな影響を及ぼしているのだろうか？

これを確認するために、男女別のロジスティク回帰分析を身体的な状態および地域活動の変数で検討した結果をみると、やはり、男性では「町内会や自治会への所属」が、女性では身体的な状態のひとつである「高齢者うつ尺度」がモデル式を構成する変数となっていた。加えて女性では「現在、収入のある仕事をしている」者の方が、こ

うした活動への参加を希望している傾向であることが確認された。「年齢」と、「高齢者うつ尺度」や「現在、収入のある仕事をしている」の間に、大きな相関関係が認められないことは、結果の項で示した通りである。

先行研究では、地域活動へ参加するきっかけが、男性では、町内会・自治会からの声かけ、女性では、友人・知人からの声かけが主である（内閣府、2003）と報告されているが、本研究の結果はこれと矛盾しない。

以上のことから、行政や関係組織による検討会議に住民の代表として活躍する人材をリクルートするにあたっては、男女ともに、児童あるいは高齢者と対象を問わず地域で活動する実績のある者を中心にアプローチし、かつ、男性では町内会や自治会を通したアプローチ、女性では収入のある仕事をしているような精神的にも溌剌としている者へのアプローチが有効であろうことが推察された。

引用文献

1) 大久保豪, 他:介護予防事業への男性参加に関連する事業要因の予備的検討. 日本公衛誌, 52(12): 1050-1058, 2005
2) 金貞任, 他：地域中高年者の社会参加の現状とその関連要因. 日本公衛誌, 51(5): 322-334, 2004
3) 藤原佳典, 他：都市部高齢者による世代間交流型ヘルスプロモーションプログラム. 日本公衛誌, 53(9): 702-714, 2006
4) 内閣府：高齢者の地域社会への参加に関する意識調査, 2003 http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h15_sougou/gaiyou.html （参照：2015/3/12）